
 愚陀佛庵通信 10-03-1

<季語の蘊蓄(うんちく)> 雀隠れ すずめがくれ・・・ 春になり木の芽や草の芽が育つてすずめが隠れるほどに茂った状態をいう。(難解季語辞典より)
もはや絶滅してしまった季語のひとつ

<俳句豆知識>

正岡子規も滑稽句をつくっていた まちがへてほめし隣の柳哉 蒲団から首出せば年の明けてある 弘法はなんと書きしぞ筆はじめ

<名句鑑賞>

鞆(しゅうせん)は漕ぐべし愛は奪うべし 三橋鷹女
高校の教科書にも掲載されているらしい。鞆とはぶらんこのこと、春の季語。
公園の片隅のぶらんこに座して恋の思案をしていた鷹女は「愛を奪う決意」をしたのだそして、力強く漕ぎはじめたのだった。「愛は奪うべし」は、当時評判だった有島武郎の評論「惜しみなく愛は奪う」を引用したもの。鷹女のように生きてみませんか・・・冗談です

<滑稽の作法>

丸めても畳むと言へり花筵 健
俳句は発見である。発見したことを喜び記録しておくものである。ことに滑稽句においては 発見してそれを誰かに自慢する喜びがある。なるほどなあと言わせてみよう。

<「滑稽俳句協会報」から>

寝違ひの首載せ歩く師走かな 久松久子
他人にはわからぬ辛さ 可笑しくも哀れ

<八木健の 365 句> 字余りとなりたる芽柳の俳句

<山口誓子の 365 句> 春の日やポストのペンキ地まで塗る

 愚陀佛庵通信 10-02-02

<季語の蘊蓄(うんちく)> 蛙の目借時・・・ かわずのめかりどき
「目借時」だけでも季語 蛙が人の目を借りるから人は眠くなる
・・・という俗説あり。「めかり」は妻狩(めかり)・・・つまり配偶者を求めることをいうとも。いずれにしてもうつらうつらと眠くなる時候をいう。

< 俳句豆知識 >

正岡子規も滑稽句をつくっていた・・・の続き。

歯固や鼠もためす鏡餅　めでたさも一茶位や雑煮餅

花見には大きすぎたり相撲取

< 名句鑑賞 >

春の夢見てみて瞼(まぶた)ぬれにけり　三橋鷹女

俳句は　一部分を書いてあとは読者の想像にまかせる。

だが、読者は作者の思いにできるだけ迫るように解釈するがよい。

瞼が濡れるのは「悲しい」からである。春の夢だから大方は「嬉しい」夢のはずだが　作者は夢に悲しい結末を見た。

夢の中で泣いたのである。「ぬれにけり」には「不覚にも」の思いがある。おそらくは遠い昔の失恋の一部始終が夢に登場したのだろう。

< 滑稽の作法 >

風の兄弟長男が春一番　健

春二番　春三番もあるから　兄弟とするなら・・・一番は長男である。

これは「分別のある人にはない発想・・・童心」である。ゆえに　俳句にはおとなの常識は不要である。

昨夜のことこの句を携帯の待ちうけ画面用につくりました。

ご希望あればプレゼント送信しますよ。

< 「滑稽俳句協会報」から >

キーワード忘れしままに年暮る　奥脇弘久

忘れたのがパスワードならオレオレ詐欺防止に

< 八木健の 365 句 >　歳末の玩具売場の子をはがす

< 山口誓子の 365 句 >　卒業奏余韻収まるまで起たず

愚陀佛庵通信　10-3-3

< 季語の蘊蓄(うんちく) >　雛市　ひないち・・・　三月の節句の前に雛やひな祭りに用いる品々を売る市。江戸時代から明治にかけて、日本橋、浅草、人形町などに市が立ちにぎわいを見せたが今ではデパート、人形店などで売り出すので衰微してしまった季語。

< 俳句豆知識 >

正岡子規の知られざる句

鞆丸(こうがん)をのせて重たき団扇(うちわ)かな
 鞆丸の汗かいてゐるあはれ也
 鞆丸の大きな人の昼寝かな

<名句鑑賞>

残雪やごうごうと吹く松の風 村上鬼城

俳句は擬音 擬態語を使わないほうがよろしい・・・と指導されるが、この句の場合にはびたりあてはまって読者に風の強さが伝わるものとなっている。残雪とのとりあわせで風の冷たさも出た。

<滑稽の作法>

新宿区渋谷区千代田区みな春めく 健

東京タワーの展望台から見た風景と説明することになっている。

「区」を「めく」の「く」に転用したところがミソ

<「滑稽俳句協会報」から>

日記買ふたつた三日の思ひ出に 桜井宇久夫
 来年は俳句手帳に流用できる奴を買いなよ

<八木健の 365 句> お花見はお見合だつたかも知れぬ

<山口誓子の 365 句> 男の雛の俯きたまひ波の間に

 愚陀佛庵通信 10-3-4

<季語の蘊蓄(うんちく)> 雁風呂 がんぶろ・・・奥州外ヶ浜(青森県)では春に雁が帰ったあと、海岸の木片を拾い、風呂をたてて、雁の供養をする。

雁は秋にわたってくる時、海上で羽を休めるための木片をくわえてくるが、春に帰るときその木片を捨てて行く。残された木片の数だけ捕らえられたり、疲弊して帰れない雁がいるわけで、その雁を供養して村人は風呂を焚く。

<俳句豆知識>

子規の知られざる句

小桜といふ遊女を買ひぬ春の暮
 気に入らぬ遊女眠りぬ朧月

うた>寝や遊女の膝の明け易き

<名句鑑賞>

囀りを聞く切り株の自由席 本宮鼎三 「囀り」は春の季語。
 複数の切り株・・・があるから山である。囀りを聞く・・・のだから、遊びで山に来ている。
 自由席だから どれにしようかと迷うほど・・・なのだ。
 作者ひとりで山に来たのだろうか。ひとりでは自由席とは言わないだろう。
 切り株は100 ぐらいはある。そこに作者を含めて 最大でも数人がひとやすみしているの
 だ。家族かも知れぬ。「自由席」に「幸福感」がある。

<滑稽の作法>

横笛の首たてに振る秋祭 健 「たて」「よこ」の組み合わせ
 案外、当たり前なのに「気付かぬ」ものだ。

<「滑稽俳句協会報」から>

初日の出倍の力で街照らす 有富洋二
 「倍」で断定した思い切りがええ 初日は凄い

<八木健の365句> 首たてにふつて納得ゆかぬ驢馬(ろば)

<山口誓子の365句> 門(かんぬき)をさすむんむんと春の星

<メルマガの反響>

「メールに私の句を取り上げて頂きありがとうございました、毎朝楽しみに学んでいます、こんなに細かく愛情持って教えて貰ったのは、はじめてでやっと俳句の本質が見えて来ました。毎朝大変ですがお体壊しませんように、御礼まで」原文のまま 転載しました。愛情持って・・・は丁寧に
 という意味ですから誤解なさいませんように・・・ハハ 反響は嬉しいものです。

俳句の結社に所属しても「ご自分で勉強なさい」「段々わかってきますよ」
 「表現が甘い」「もっと対象を良く見なさい」ぐらいしか指導者は言わない。
 俳句の本質までは言及しない。というか主宰自身が本質までは考えないでせいぜい・・・「俳句は省略です」「感動を描くものです」程度ですからね。
 手前味噌ですがこの「メルマガ」かなり参考になるはず。
 一月二月のバックナンバー パソコンにお送りできます。

明日と明後日のメルマガお休みです。「読まなくて済む」なんていわないで。

 愚陀佛庵通信 10-03-6

<季語の蘊蓄(うんちく)> 啓蟄 けいちつ・・・ 二十四節気のひとつ土中に冬ごもりしていた虫が姿を現すという意味。「啓」はひらくこと 「蟄」はとじこもる の意味

<俳句豆知識 最初は「話すように」つくる・・・ とよろしい。誰かに向かって話す。

もぎたての枇杷です少し固いです 健

芋炊きの汁短冊にこぼされんよ 健 子規の句にも

毎年よ彼岸の入りに寒いのは 子規

これはこれはこれは今年の暑さかな 子規

<名句鑑賞>

山吹の花の鎖の幾垂も 山口青邨 花の鎖 という新しい表現 それだけで句が新鮮なものとなる。幾垂 これも新しい表現 句末の「も」に「切れ」をつくっている 山吹や花の鎖の幾垂も・・・とした場合は 山吹のある風景になるが 幾垂も としたからたれている花房の数が強調されることになった。

<滑稽の作法>

威銃(おどしづつ)村いちばんの空威張り (からいばり) 擬人化である。根底に写生の心がある。人気(ひとけ)のない村の昼下がり 鳥除けの空砲だけが響いている。空砲だから空威張り である。

<「滑稽俳句協会報」から>

嵐寛の天狗に近きマスク掛け 草薙一朗

新型のインフルエンザで嵐寛ウジャウジャに？

<八木健の 365 句> 寒灯や脱ぎしかたちにシャツ置かれ

<山口誓子の 365 句> うしろより見る春水の去りゆくを

<気になることば>

航空機内のアナウンス・・・3月4日の朝の便(松山発東京行き 8時10分発 JAL 便)での機内アナウンス・

椅子の背を・・・「背凭(せもた)れ」のことを「椅子の背」とは如何なものか。

「椅子に腹」があるとでも

「関東では梅の花がほころびはじめました」とも・・・ 梅は2月の花で、疾うに散っ

てしまっている。あきらかに誤りである。 加えて 「つぼみ」が「ほころぶ」のであって「花がほころぶ」は表現として正確でない。

「お気をつけて」・・とも「お」で始める敬語表現は 「なる」で終る・・ワンセットである。この場合「お気をつけになってください」というべきである。

愚陀佛庵通信 10-03-07

<季語の蘊蓄(うんちく)> 涅槃西風 ねはんにし・・・ 涅槃会(陰暦2月15日)の頃に一週間ほど吹き続く西風。俗に西方浄土からの迎え風というがこの風が吹くと寒さが戻る。

<俳句豆知識>

前回、最初は「話すように」つくるがよい。と申しましたが、それは自分でなくても 誰かが話しているのをそのまま書いてもよいということです。昨日紹介した

「芋炊きの汁短冊に・・・・」は三瓶町のいもたき句会で85歳の女性が話したもの。「毎年よ彼岸の入りに・・」は子規の母親のことばです。

あんたはんなんはや屋気楼でとがやぜ 健

これは私がNHKに入社し初任地の富山で下宿のおばさんが「あなた早くも屋気楼が出ていますよ」と言ったのを頂戴したのです。

<名句鑑賞>

菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村 絵のように美しい風景です。安永三年の三月二十三日に詠まれたとされていますが、「日付からするとこのような風景はあり得ない」が一般的になっています。しかし、いかにもありそうな風景として脳裏に描かれたわけで、俳句工房とはそんなもの、つまり精神のはたらくままに描けば よろしいのです。

<滑稽の作法>

感じたままを話すように書く

春一番きつとさうだと思ったの 健

この句はこどもの句会に参加して おじさんの句と悟られないようにつくったものですが、小学4生ぐらいで、春一番について学び、その直後に春一番らしい風が吹いた。その日の夕方のテレビで气象台のおじさんが「春一番がふきました」と言ったのでこどもが母親に「きつとさうだと思ったの」と言った・・まあそんなところですが。

<「滑稽俳句協会報」から>

どこからを頭といふか木の葉髪 山口濤聲
マジックで線ひいても 仕方なかんべさ

<八木健の 365 句> 胃袋にするりおさまり心太

<山口誓子の 365 句> 巣づくりの藁空中に曳いて飛ぶ

愚陀佛庵通信 10-3-09

<季語の蘊蓄(うんちく)> 試験 しけん・・・以前は 「大試験」といって卒業試験のことだったが今は入学試験 就職試験・・・いずれも季語として使う。及第、落第、合格・・・も季語である。

<俳句豆知識>

感じたままを書くは「話すようにつくる」ことになる。誰かがこんなふうに見る
うめですかさくらですかこの裸木は 健 自分がこんなふうに見る
マフラーの巻きかた案外難しい 健

<名句鑑賞>

じゃんけんで負けて螢に生れたの 池田澄子
れは釈迦の死を嘆いて動物が集りますね。多種の動物がいるところの会話とすればわかりやすい。哲学的句意も風景にして読み解く。 私たちは偶然人間に生れたのである。

<滑稽の作法>

かき氷どの部分から崩さうか 健
「疑問をそのまま書く」は滑稽の方法である。これは「話すようにつくる」と一脈通じている。「どの部分から」は純粋な吹きではないが。

<「滑稽俳句協会報」から>

友遠方より来て風邪置いて去る 中沢荘荷
次回は強烈なのを手土産に持たせてお遣りよ

<八木健の 365 句> 一匹の蟻の列はなれぬ

<山口誓子の 365 句> 日本の地表れんげ田にて見えず

<話し方講座>

・・・というほどではないが、昨日のこと愛媛 CATV の社長 神山充雅を訪ねた。萬翠荘サ

ロンコンサートの実行委員会の会長になっていただくお願いに。快諾された神山さんが「20年ぶりの再会ですね」とおっしゃる。氏はNHKの視聴者会議で委員をなさっていたのだ。私は会議の司会をした。「あのとき、この司会者はタダモノではない。と思ったんです」と・・・

続けて・・・「やぎさんのひとことで緊張の座がいつぺんになごんだのです。その『ヒトコト』とは・『クソアツイ』です」と・・・今そのヒトコトをどのように使ったのか思い出した。「只今よりNHK視聴者会議を開催いたします。みなさまそれぞれにご多用のなか、しかも最高気温が40度近い、このクソアツイ中を・・・」このクソアツイに・・・会場の雰囲気が一変したというのである。20年前のひとことを覚えていてくれたのだから印象的だったに違いない。この「クソアツイ」は「礼儀正しいことばの中でひとつだけ俗語を使う」という「ワザ」であった。

愚陀佛庵通信 10-3-10

<季語の蘊蓄(うんちく)> 蝌蚪 かと・・・「おたまじゃくし」のこと「かえるこ」とも読む 語源は 中国の古書に登場する。竹筒に漆の汁をつけて書いた文字のこと。あたまでっかちで蛙の子に似ているから。明治以降 齒偉人だけが使うことば

<俳句豆知識>

俳句は 17文字ではなく 17音字である。ゆび折数えて 17文字にならないといけん・・・と思ひ込んでいる俳人が多いが 575のリズムで読めば よろしい 拙句に「ジャパニーズ引き込むキングサーモンの馬鹿力」がある。じゃぱにーずひきこむ 9文字だが5音で読み きんぐさーもんの は8文字だが 7音で読む ばかじから は5音だからそのままでもよしい この句は「にっぽん丸」で俳句講師をした際にアラスカでキングサーモンを釣ったときの句です。

<名句鑑賞>

六月の女すわれる荒筵 石田波郷

「女」の「やわらかさ」と「荒筵(あらむしろ)」の「荒々しい感触」 相反するものが生む衝撃がポイントか。

なぜ六月なのかこの句をつくったのがたまたま六月だったというので季語としての意味がない。

「六月の女」までが季語としてつくられたのである。

本格的な夏を前にして女は座してもの思いに耽っているのだ。

六月はそういう季節なのだ。

<滑稽の作法>

片陰(かたかげ)を行けばいいのにあの人は 健

片陰は真夏の太陽が少し傾きかけたときに建物の片側に陰ができる。そこを人々は歩いた。あるいはそこに立ち止まって暑さを避けた。

今の若い人は「片陰」を知らない。

だから 太陽光を浴びて歩く・だからこんな句が出来た。どこが可笑しいのか。

それは一句が完結していないということである。この句のあとに七七をつけて短歌になる。それは読者が参加できる部分なのだ。俳句は読者参加型文芸だが滑稽句の場合は参加型を意識することで「可笑しい」が生れる。七七をつけるとすればたとえば「・・なにを急いで真ん中に行く・・」などと。

<「滑稽俳句協会報」から>

角材を板切れにして鮪買ふ 前川敏夫

板切れ・・ならいいよ 鮪の薄造りでは情けない

<八木健の 365 句> 朝寝して太陽に顔洗はるる

<山口誓子の 365 句> プロペラの回転霞掻きまぜて

愚陀佛庵通信 10-3-11

<季語の蒞蓄(うんちく)> 「つくつくし」「つくづくし」・・・ふたつの季語 前者は法師蝉(夏) 後者は 土筆(春) である。

「氷雨」は夏の季語でもあり 冬の季語でもある まいまい は かたつむり にもみずすまし にも言う いずれも季語である。

<俳句豆知識>

五七五は 十七文字ではなく 17 音字であることは前回に述べた。ここで肝心な「字余りは、上五(かみご) に置く」ということである。おっと・上五 のことを説明せねばならん。俳句は 五七五のそれぞれを上五 中七(なかしち) 下五(しもご) と呼ぶ。下五に置くと気持ち悪い。 字余りは上五にまかせ中と下 下五に置けば居心地悪しなのである

命二つの中に生きたる桜かな 芭蕉

夏衣いまだ風を取り尽くさず 芭蕉

<名句鑑賞>

昼寝するつもりがケーキ焼くことに 稲畑汀子

「昼寝」は夏の季語。昼寝の代わりに 夜なべ(秋の季語)の句にしては・・・夜なべするつもりが・・・合いませんね。句意は・・・ヒマだから昼寝しようと思ったところに孫たちがやってた。昼寝も楽しいけどケーキ焼くのも楽しいわよ というほどの意味

<滑稽の作法>

お引越スミレは移植鏝(いしょくごて)に載り

滑稽は読者が可笑しいと感じてこそである。庭の片隅のスミレを植木鉢に移植する風景だがそれを「お引越」と思ったのが「童心」である。瞬間 脳裏に浮かんだことをそのまま書くと「滑稽句」になる。笑わせようという作意があると滑稽にならない。

<「滑稽俳句協会報」から>

夜更かしの寝込みを襲う初メール 種谷良二

返信メールの逆襲ということもしばしば

<八木健の 365 句> あめんぼう等身大の影を踏む

<山口誓子の 365 句> 涅槃図に継ぎ目涅槃を継ぎ合はす

<話し方講座> 「冗舌」じょうぜつ・・・ことばとしては マイナスイメージである。

「お喋り」も同様である。しかし、使い方次第でプラスになることがある。

昨日のこと 豊田省吾氏から手紙がとどいた。そこには、豊田氏自身が作詩作曲プロデューサーの「ウェディングベル」について・・・「今まさに旬な話題の歌を是非 ユーチューブで聞いてください。

「大石玲子」を検索して萬翠荘 ラストコンサート アンコール曲 で、元 NHK アナの八木健・萬翠荘館長の冗舌なる司会のもと 繰り広げられた今まさに松山で注目されている曲です」とあった。ポイントは、「冗舌」である。

萬翠荘で 3 か月に 75 回開催したコンサートの大半の司会を担当した。

一切打合せ せぬ、「ぶっつけ」コンサートの冒頭、休憩 エンディングに登場して話した。休憩時間はよそ 10 分であるが、中には 15 分近い休憩をとる出演者もいる。その間、司会の八木健が登場するわけで、この場合「冗舌」がぴたりあてはまり、冗舌を「ウリ」にした司会だった。だから豊田氏の「冗舌」は 司会者にとっては 褒めことばなのだ。「おしゃべり」は誰かをさして言うことばではない「おしゃべり を楽しみましょう」という場合に使うのは適切である。

【お知らせ】第二回滑稽俳句大賞の審査結果を 昨夕、ホームページ上で、発表しました。本欄でも随時 ご紹介しますが・・・とりあえず

<http://www.kokkeihaiukyoukai.net/> でご覧ください

 愚陀佛庵通信 10-3-12

<季語の蘊蓄(うんちく)> 木の芽(このめ) 木の芽和 きのめあえ・・・と読む
 木の芽 をこのめ と読めばいろいろな木の芽のこと 木の芽 をきのめ と読めば山
 椒の芽のことである。瀬戸内は 蛸の 産地で この季節の蛸を 木の芽蛸 と呼ぶ これを
 きのめだこ と読むからややこしい きのめだこでは 蛸の和え物になる。

<俳句豆知識>

俳句を書くとき 五 七 五 で 区切って書く方が多いのですが あれは誤りです。
 というより 誤った解釈をされてしまいます。一行になるように切り離さずに つづけて
 書くべきなのです。例をあげると

故里の人や汗して菜飯食ふ 細見綾子

この句を読むときは 故里の人や 汗して菜飯食ふ となるわけですね 書くと
 きに 故里の 人や汗して 菜飯食ふ と 五七五で 区切って書くと わからなくな
 ります。

<名句鑑賞>

一身に(虻)引受けて樹下の牛 右城暮石(うしろぼせき)

引き受けて・・・とすることで ウシに群がる虻が見えてくる。虻に刺されると痛いウ
 シは平然と 尻尾を左右にふっている。虻ぐらいではびくともしない ウシも見えてく
 る。ウシに虻がたかっているという写生にせず 擬人化したことで 哀れさと可笑しさを
 描くことができたのである。

<滑稽の作法>

一刀両断大根のふくらはぎ 健

まな板の上の大根を・・・ふくらはぎ は 大根が脚に見えるということ。脚では両断に決
 意を必要とする。それが一刀両断という表現になったのである。滑稽句も誰かが使った表
 現でないこと

<「滑稽俳句協会報」から>

初夢の無念帯解くところまで 可知豊親

夢の中で帯を解くもどかしさ・・・ですね

<八木健の 365 句> 売り声の語尾をひきずり豆腐売

<山口誓子の 365 句> 春水と行くを止むれば流れ去る

【おしらせ】 明日のメルマガおやすみ です

 愚陀佛庵通信 10-3-14

<季語の蘊蓄(うんちく)> 躑躅 つつじ・・・ 春の季語です。花びらが基部で癒着して筒状になる種類をツツザキが ツツジとなったという説がある。ツツジの一首に 皐月(さつき) がある。その名の如く五月に咲く。

<俳句豆知識>

俳句を声に出して読むときは 切れの部分で若干の間をおくとよらしい

古池や・・・蛙飛び込む水の音

間をおくことで「切れ」が明確になるからです。「蛙飛び込む水の音」は少し落として読むとよらしい。

<名句鑑賞>

裸に取り巻かれ溺死者運ばるゝ 右城暮石

衝撃的な風景を冷徹な目で描写している。作者は溺死者と何の関係もない。物体のごとく運ばれる遺体と運ぶ裸の男たちを見ている。出会った「ある死」に立ちすくむ作者がそこにいる。

<滑稽の作法>

逃水(にげみず)は神のお洩らしかも知れぬ 健

舗装路に水溜りがあるように見えて 近づくると逃げてしまう現象。屋気楼(しんきろう)の一種。屋気楼の一種・・・という知識は 句作の邪魔になる。その知識が天真爛漫の句をつくる邪魔になる。仮にその知識があっても「忘れる」ほうがよらしい。滑稽句をつくるには「知識を捨てる」ことが大切。

<「滑稽俳句協会報」から>

熱爛にして聞き役に回りけり 飛田正勝

サラリーマンの悲哀だね

<八木健の 365 句> 芋炊の汁短冊にこぼされんよ

<山口誓子の 365 句> 火が痩せて痩せて修二会の駆け廻る

<講演会>・・・昨日のこと、高知県土佐市の社会福祉会館で「滑稽俳句と滑稽浪曲」というタイトルの講演をした、聴衆は 150 人余で、ご高齢の方が多かったので「浪曲・虎造節・石松三十船道中」は大いに 受けた。八木健が開発した浪曲カラオケの威力はスゴイ。拍手鳴りやまず、司会の男性は、会場がひといきついでから「このように八木健さんはアナ

ウンサーの頃より生き生きしています」とコメントした。

かつて高知局に勤務したことがある。高知放送局の近くにある丸福というラーメン屋さんを訪ねた。23年前に頻りに利用した店で、親爺は引退して、当時の若い衆(息子)が店主になっていた。ひさしぶりに・・・ということで お客をそっちのけで握手したまま話した。丸福のラーメンは部厚い器を温めてあるので冷めない。

愚陀佛庵通信 10-3-15

<季語の蘊蓄(うんちく)> 藤 (ふじ)・・・ 日本の在来種に「野田藤」と「山藤」がある。「野田藤」は大阪野田の藤の宮というお宮にあったものをいい、蔓が左巻き。一方、山藤の蔓は右巻きである。

<俳句豆知識>

ふたたび「切れ字」について 先日、本欄で「切れ」をつくるとその部分が強調されると申しましたが、「切れ字」を使うと明確に切れます。それは「切れ字」に「詠嘆」のはたらきがあるからです。古池や蛙飛び込む水の音・・・古い池蛙飛び込む水の音 「古い池」でも切れますが「や」にはかなわない。

<名句鑑賞>

毛虫の季節エレベーターに同性ばかり・岡本眸
 作者は女性である。狭いエレベーターは女性ばかりで満員。
 それに毛虫が群がる様子を重ねあわせている。男性がいないだけでエレベーターの女性が毛虫に見えた。というのは、女性の本能である。そこには、男性の筆者には窺い知れない「嫌悪感」がある。仮に作者が男性で 毛虫の季節エレベーターに同性ばかり・・・としたら 華やかな女性を毛虫に見立てたような 意外性はない。

<滑稽の作法>

春の田の空は燕に所有権 健
 俳句らしくない 書き方・・・それが滑稽の方法のひとつである。この句は「は」を使っている。「は」を使うと散文になるとして「使わぬ」ように指導される。「所有権」に至っては、説明的であり俳句的ではない。だが田の上を縦横に飛ぶツバメを見てなにを思ったのかを描くことができている。表現の意外性により生じる滑稽である。

<「滑稽俳句協会報」から

不条理の棒のつらぬく去年今年 西をさむ
 「ブレ」たりせずに貫きなさい 麻生さん(当時の総理の名前)

< 八木健の 365 句 > 草笛の鳴らなくなつてしまひけり

< 山口誓子の 365 句 > 巖(いわお)動かず渦潮の自在境

愚陀佛庵通信 10-3-16

< 季語の蒔蓄(うんちく) > 剪定せんてい・・・春の季語である。発芽前に徒長した実をつけない軟弱に伸びた枝を切る。果樹だけでなく庭木にもいう。夏に繁茂した枝を切り落とすのは「刈り込み」と呼ぶ。

< 俳句豆知識 >

・・・横道に逸れますが・・・拙著に「すらすら俳句術」がある。

平成 10 年に岳陽舎から出版したもので、現在も売れている。それをめくっていたら・・・

「あまみずをべんちでのんでちよらですよ」という 季語のない一句が出てきた。

すっかり忘れたいたが(当時は山歩きを頻繁にした)「あまみずを・」の一句は、山歩きに必要なものをつづったもので、「あま」は雨具。「みず」は水で、水筒のこと。「べん」は弁当「ち」はチョコレートのような非常食。これは道に迷ってしまった場合のため。「ら」は「ヘッドランプ」これも夜になったら必要である。つまり 五七五は メモがわりに使える。

< 名句鑑賞 >

蛙の目越えて漣(さざなみ)又さゞなみ 川端茅舎(かわばたぼうしゃ)

高浜虚子に『花鳥諷詠真骨頂漢』とまで言わしめた写生派の俳人らしい作。

さざなみの句ではない。さざなみをかぶっても「まばたき」もせずによるこんでいる蛙を称(たた)えているのだ。この句の季語は「蛙」(春)俳句は季語を賛美する。

< 滑稽の作法 >

切り分けし西瓜の塔に種の窓 健

講演会などで「童心」に戻る必要を言うのに使う一句。滑稽句といえるかどうか。種の窓としたことが「なるほどと思わせる。常識のある人からみた場合に「滑稽」なのだ。

つまり滑稽句は、「滑稽」を意識せずとも「童心」にかえれば「誰か」から見ての滑稽な句ができる・・・ということ。

< 「滑稽俳句協会報」から >

ちんちんをねだり初湯の女の子 佐藤古城

かわいいね。いやらしさなんて皆無

<八木健の 365 句> きちきちやなにか叫びつつつ跳べる

<山口誓子の 365 句> 三角を忌まずげんげの三角田

<話し方講座>・・・拙著に「一時間の講演スピーチが上手に出来る本」(中経出版)がある。韓国語に翻訳されて韓国でも売られている。その第一章に「スピーチを「ごちそう」すると心得るがある。この本には書いていないが「スピーチ」は「フランス式ご馳走」とされている。食べ物で接待されるより「おしゃべり」で接待されたほうが・・・話も弾んでよるしい・・・のです。

愚陀佛庵通信 10-3-17

<季語の蘊蓄(うんちく)> 涅槃 (ねはん)・・・陰暦二月十五日 釈迦が入滅(にゆうめつ)したことを涅槃と呼ぶ (入滅=お亡くなりになること)
その日行われる法要を涅槃会 ねはんえ と呼ぶ
一般的には「涅槃」は煩惱(ぼんのう)を滅ぼした解脱(げだつ)の境地をいう。

<俳句豆知識>・・・ 俳句の楽しみ

俳句には 誰かの・・・とりわけ名句を読む楽しみがある。

自身で俳句を詠む楽しみがある。そして誰かと俳句を語り合う楽しみがある。

この語り合う楽しみが「句会」である。句会は 作者名を伏せて一覧をつくり人気投票をする。きわめて民主的な文芸である。

<名句鑑賞>

香水や時折キツとなる婦人 京極杞陽

とりあわせの句である。香水のもつ「気品」とともに「高慢」「自己主張」・・・
そういうイメージと共通する風景をとりあわせて納得のゆく一句である。

<滑稽の作法>

引力の平等藤の房垂れる 健

藤の棚を見て藤の房がどれも垂直に垂れていることへの感動を描いたものだがそれを「引力はすべてのものに平等だ」と感じたのである。滑稽句はあたりまえのことを「今発見したごとく」書くのである。

<「滑稽俳句協会報」から>

すごすごとバレンタインの日を帰る 横山喜三郎

恋に破れた猫みたいな若き日の喜三郎

<八木健の 365 句> ざわめきへーベルの鳴り初芝居
 <山口誓子の 365 句> げんげ田の広大これが美濃の国

【本日】愛媛県指定有形文化財 萬翠荘 で 50 年振りに結婚式が開かれる。
 結婚式は「晚餐の間」で 午後 0 時 30 分から。私めは、萬翠荘館長として、大礼服を着用して「結婚証明書」渡す役をする。大礼服は天皇に拝謁する際の着用する陸軍中将の軍服である。結婚式は公開である。

 愚陀佛庵通信 10-3-18

<季語の蘊蓄(うんちく)> 木蘭 もくれん・・・正式には 木蓮 でなく木蘭と書く 木蓮は傍題である。「蘭」を書くのは花が「蘭」に似ているからである。

<俳句豆知識>・・・句会の続き

句会は 作者名を伏せた一覧をつくり 好きな句を選ぶ「選句」をして人気投票をして自身が選んだ句を声に出して読む「披講(ひこう)をしたあと 得点の合計をして 点の高い順に 選んだ理由などを語る「合評」(がっぴょう)をする。その場合選ばなかった理由を話してもらうのも参考になる。句会のよさは 自身が意図したものと異なった批評をされたりすることで他人の解釈の方がよい場合すらある。自身の思い込みが通用しないことを知ることもある。

<名句鑑賞>

遠雷やはづしてひかる耳かざり 木下夕爾

耳かざり・・・とは古い言い方だが イヤリング・・・よりは上品な感じがするから不思議である。句の風景は 屋外であろう。ハイキングかも知れぬ。感電するヒカリモノを女性がはずした。というだけだが なんとなく 不安感が漂う。遠雷に・・・としたら 原因と結果の句になる。「や」としたことでひろがり。

<滑稽の作法>

秋刀魚の解剖お箸のメス揮ひ 健

俳句はルーツに俳諧の連歌があり、俳諧の連歌は「滑稽」な句であった。それは「連歌の「雅」にたいして「俗」なものであった。

この句では 「解剖」としお箸を「メス」に見立てた。しかし、根底には誰もが一瞬感じて・・・しかしは行くに書かなかったことを作品にしているのだ。

<「滑稽俳句協会報」から>

何十年皺のよらない雛飾る 安藤淑子

皺のよる人を羨むひひなかも

<八木健の 365 句> 一湾を縄張りとして海月(くらげ)かな

<山口誓子の 365 句> 毛氈(もうせん)のめくれを正す大石忌

パソコンの機嫌伺ふ春愁 ということ 昨日のメルマガは休刊しました。

愚陀佛庵通信 10-3-21

<季語の蘊蓄(うんちく)> 花(はな)といえば「さくら」と、古今和歌集あたりから定着。「さくら」は「咲くらむ」が語源。桜は元来、山桜のこと
山桜系統の大島桜と彼岸桜の交配種が駒込染井の植木屋によって売り出された。これが染井吉野で全国を席捲して海外にも広まった。

<俳句豆知識> 句会の続き・・・です

席題と兼題のように題を決められて詠むものを題詠(だいえい)と言います。これに対し、自由な題でつくる「自由題」に囑目(しょくもく)と当季雑詠(とうきざつえい)があります。囑目は 眼に触れたものを詠むと言うこと。句会の当日に会場のまわりで眼にしたものの中から自由にえらんでよしい。当季雑詠は事前に投句する場合も句会の場でも今の季節の季語を使って自由に・・・と

<名句鑑賞>

てのひらにのせてくださる柏餅 後藤夜半

「てのひら」は作者のてのひら である。手をお出しなさい 柏餅あげましょう 幼い日の思い出である。俳句は「思い出」を今のこのように描くのです。

<滑稽の作法>

マフラーの巻きかた案外難しい 健

説明のように見えるが説明ではなく、つぶやきである。滑稽俳句は正直をつぶやけば簡単に?できる。たとえば・・・胃袋がまだもの足りぬ豊の秋

<「滑稽俳句協会報」から>

妙齡がその意味を問ふ犬ふぐり 可知豊親

妙齡が案外カマトトだったりで

<八木健の 365 句> げんげ田に寝しひとがたの残りけり

<山口誓子の 365 句> 巢を奪られたる親雀天翔くる

 愚陀佛庵通信 10-3-23

<季語の蘊蓄(うんちく)> 季語は名刺にしたり動詞にしたりと・・・自在である。

それは一句の中でどのように使うか・・・ということで 笑ふ山

山笑ふ 水温む 温む水 寒明け 寒明ける・・・などと

<俳句豆知識>

俳句の「技」とされているものに「誇張」「擬人化」がある。これは「滑稽俳句」と共通する技法であるが・・・「誇張」は「大げさ」に言うことと受け止める方が多いが、それき間違いである。俳句は感じたままに書くものだから その結果が誇張とされる表現になるのである。拙句に

海原を持ち上げてゐる鯨かな がある。

鯨が海原を持ち上げるはずがない。しかし・・・そのように感じたから書いたのである。

<名句鑑賞>

つく息にわづかに遅れ滴れり 後藤夜半

俳句は瞬間を詠むものである。この句の「切れ」は「滴れり」である。つく息にわづかに遅れ・・・は厳密にいえば経過である。だが、しかし、瞬間とは「どの程度の時間」をいうのだろうか、厳密にいえばソクラテスの「飛んでいる矢は・・・」である。実はこの句は「滴りの水滴の膨らみが最大になって・・・滴る」その経過すべてが滴る瞬間と考えるべきなのである。

<滑稽の作法>

既成概念や常識を無視することで滑稽が生まれる。

拙句に 芋虫の美人にあらむ緑濃し がある。

気味の悪い芋虫を美人だなどと言うだけで非常識だが、鮮やかな緑色に感動したのである。

<「滑稽俳句協会報」から>

寒紅の唇からちくりちくりかな 壽命秀次

寒紅のちくりちくりに冴えかえる

- <八木健の 365 句> 食道をずり落ちてゐる寒卵
 <山口誓子の 365 句> 天よりもかがやくものは蝶の翅

愚陀佛庵通信 10-3-24

<季語の蘊蓄(うんちく)> 貝寄風 かいよせ・・・ 陰暦2月20日頃に吹く激しい西風のこと 大阪市天王寺の聖霊会の舞台に、吹き寄せられた貝殻でつくった筒花を飾ったことに由来

<俳句豆知識>

擬人化について 動物やモノを人間扱いかることではない
 作者が 鳥になったり花になったり・・・ソノモノと同化することをいうのである。「鳥を詠うときは鳥になれ雲を詠う時は雲になれ」・・・てなことを山口誓子が言ってる。芭蕉さんの受け売りですが。

<名句鑑賞>

算術の(少年)しのび泣けり夏 西東三鬼
 ご七五の区切りと意味の区切りが一致していませんこれを「句またがり」と呼びます。「字あまり」や「句またがり」は「不愉快」ですが意図的に字あまり 句またがりをつくることがあります。この句の場合 しのび泣きを強調して 晩夏の憂鬱を描くのに句またがり は効果的です。作者のご子息を詠んだものと思われま

<滑稽の作法>

滑稽俳句といっても無茶苦茶なつくり方をするというのではない。基本的には「写生」という手法だからオーソドックスな俳句と同様の作り方である。その視点 作者の位置が異なるのである。極めて客観的に描くのもそのひとつである。

大根を地球と奪ひあつてゐる 健

<「滑稽俳句協会報」から>

中古機にそれぞれの癖農具市 高田敏男
 トラクタの暴走癖はご勘弁

- <八木健の 365 句> 降水確率零パーセント青田風
 <山口誓子の 365 句> 光ぎつしりと蝶老ゆることありや

【メルマガ休刊します・26日から・29日まで】

石松没後 150 年大祭で 静岡県周智郡森町観光協会から招かれて 28 日に 森町の石松の
菩提寺・大洞院の石松墓前で 浪曲を奉納する。演目は「石松三十石船道中」口演・虎造
節保存会会長 八木健 曲師は一風亭初月 馬鹿は死ななきゃ治らない・・・ね

愚陀佛庵通信 10-3-25

<季語の蘊蓄(うんちく)> 鼓草(つづみぐさ)春・・・ 「たんぼぼ」のこと 花のかた
ちが 鼓に似ている。「たんぼぼ」の語源が鼓草

<俳句豆知識>

俳句は瞬間を詠むものです。なぜ瞬間を詠むのかといえば 経過を詠むと説明になるから
です なぜ 説明をしては駄目かと言えば 説明している間に「詩」が消えてしまうから
です。

<名句鑑賞>

鉄板に息やはらかき青蛙 西東三鬼

俳句は異なるふたつのものを取り合わせるとテーマが浮かびあがります。それは「とりあ
わせ」の句でなくても同じことです。この句の季語は「青蛙」です。青蛙という柔らかな
ものと鉄板という硬質なものの組み合わせです。息が見えているわけではない。首のあた
りが微かに動いているのである。

<滑稽の作法>

春愁のとどのつまりの大あくび 健

滑稽俳句が川柳に似ていると批評されることがある。それは人間を詠むからである。川柳
と異なるのは「俳句は自身を詠む」「川柳は他人を詠む」

<「滑稽俳句協会報」から>

蛇穴を出て焼酎の瓶の中 中沢荘荷

蛇穴に入る焼酎の瓶の口

<八木健の 365 句> 怖いものなし蠅叩き手にあれば

<山口誓子の 365 句> 息吹山眉間に縦の雪の凝る

【明日から 29 日までメルマガ休刊】

八木健(虎造節保存会会長)は石松没後 150 年大祭で浪曲を奉納 静岡県周智郡森町の大洞
院(石松の菩提寺)の石松墓前にて 3月28日午後2時30分から

 愚陀佛庵通信 10-3-30

<季語の蘊蓄(うんちく)> 春の季語で 鹿尾菜 海雲 などは読めないが
読み仮名を見れば 納得できる 鹿尾菜はひじき 海雲 は もずくである。

<俳句豆知識>

瞬間を詠むということは 動詞を使う場合 複数の動詞を使わないということです 複数の動詞を使うと経過になります。アイスクリーム食べて汚れし口拭ふ・・動詞が三つありますね・・経過です こんなときは 汚れたるアイスクリムの口拭ふ・・として動詞を形容詞的に使い、今を中心に描きます

<名句鑑賞>

餅(こだま)して山ほととぎすほしいまま 杉田久女
ほしいまま・・とは作者がほしいままではない。山ほととぎすが 自身の声を「こだま」させて 山の主のようだと知っているのである。誤った解釈が世に通用していて 作者がほととぎすの声を独り占めにしている・・なんてのがある。

<滑稽の作法>

シャワー浴ぶ祈るかたちに立ち尽くし
俳句は自身を笑う てのひらに乗せて笑う 偉そうなことをいっても所詮は弱い存在でシャワへの水圧にさえ従順になるほかない・・ということである。

<「滑稽俳句協会報」から>

節分や仕事の鬼が早仕舞 長島唯男
ワークシェアリングか節分の鬼も

<八木健の 365 句> 鉄塔が気に入つてゐる寒鴉

<山口誓子の 365 句> さくら満ち一片をだに放下せず

石松没後 150 年大祭に 石松の墓前にて浪曲奉納 石松三十石船道中を唸って 2000 余の聴衆を唸らせたよ。

 愚陀佛庵通信 10-3-31

<季語の蘊蓄(うんちく)> 末黒の薄(春)すぐろのすすき 野焼きをしたあと芽の先端の焦げた薄がのびてくるのを言う。 末黒野 すぐろの

<俳句豆知識> 前回の続き・・・

瞬間を詠む・・・そのためには 助詞の「て」を避ける必要があります 「て」を使うと・・・
 食べて寝て起きてそれから夜遊びに・・・俳句ではありませんが「て」を使うと大方は経過
 になります。

<名句鑑賞>

暗闇の眼玉濡らさず泳ぐなり 鈴木六林男

戦場での渡河の体験である。見つければ狙撃されるという緊迫感をさらりと描いている
 極限状態を描くに「写生」による客観視。

<滑稽の作法>

みづうみのおもてを汚し大夕立 健

いくたびも述べたように「滑稽句」は裏切り構成にすると簡単にできる。季語を賛美する
 のが俳句である。大夕立(おおゆだち) を褒めるのが従来の俳句である。ところがこの句
 では湖の水面を「汚した」として大夕立を賛美するどころか「悪者」にしたたのである。

<「滑稽俳句協会報」から>

納棺の如肅々と雛納め 西 をさむ
 一年後生き返らせる雛納め

<八木健の 365 句> 頭を低くして蝉時雨くぐりけり

<山口誓子の 365 句> 排泄をさつと水洗山桜

旅行のため・・・明日から 3 日間 メルマガ休刊します。